

ひたすらエルサレムへ

2023年4月23日

使徒の働き 21章1～26節

序：20・7、13、14 21・1、4、6、7、12 「私たち」＝ルカ同行
16・10、11、13のトロアスから登場（第二次旅行時、マケドニア人の叫び）
今回第三次旅行でも、ルカが合流したのはトロアス

パウロは五旬節には、エルサレムに着いていたいと願っていた（急ぎ旅）
ミレトス（エペソ教会の長老たち）～コス～ロードス～パタラ（大型船に乗換え）～
キプロス島を左に見ながら～シリアのツロ（積み荷）

I. ツロでの滞在7日間

ツロの聖徒たちとの交わり（初対面）

迫害によってエルサレムから離散？

預言（聖霊による）：パウロのエルサレム行きに反対、苦難を予想
出発時には家族総出で見送り、海岸で膝まづいてともに祈る 惜別
キリストの愛、祈りの美しい情景

II. プトレマイスの兄弟たちのもとで一泊

III. カイザリア（かなりの期間）

(1)エルサレム教会のあの7人のひとりピリポの家に泊まる
4人の娘はみな独身で預言活動（みことばの宣教のため献身）

(2)アガボ（預言者）がユダヤから来訪

パウロに待ち受けている苦難（捕縛）を帯を使って示す by 聖霊
ユダヤ人が捕縛 ⇒ 異邦人に渡す（イエスと同じパターン）

大ききんの預言をした（11・27～28）人物

(3)それを聞いたカイザリアの聖徒たち（ピリポと家族を含む）
同行者（ルカを含む） は制止を図る

(4)しかし、パウロの決心は固く、覚悟を翻すことはできなかった
捕らえられることだけでなく、死も覚悟している

(5)彼らは説得をやめて、神のみこころにゆだねた

IV. エルサレム

数日後

カイザリアの弟子たち数名とパウロの同行者たち

(1)宿泊先はキプロス人ムナソンの家（異邦人の聖徒）…… エルサレムでは適切

(2)エルサレム教会訪問

ヤコブと長老たち（ほかの使徒たちは不在？）の温かい出迎え
パウロの宣教報告（神が異邦人の間でなさったことを詳細に、個別に）
彼らは神をほめたたえた（エルサレム会議の後の成果を知った）

(3)長老たちの懸念

- ①パウロの宣教で流布されていたうわさが偽りだと証明しなければならない
キリスト者となった後もみな律法を忠実に守っていた万単位の人々
パウロが、異邦人の中にいるすべてのユダヤ人たちにモーセに背くよう
教えている（子どもに割礼しない、慣習に従うな）
これは異邦人には適切でも、ユダヤ人にとってはとんでもないこと
- ②その解決はパウロが誓願に参加すること
エルサレム教会の4人がナジル人の誓願をたてていた
その30日の期間内に儀式上の汚れ（罪）を犯した
神殿できよめの儀式が執り行われる 期間は7日間
その期間が終わると髪をそる
パウロが彼らと一緒にこの儀式に加わり、そのささげものの費用を
負担するよう要請された
そうすれば、パウロに不利なうわさが根拠のない偽りだとされ、パウロ
も律法を守っていると皆の者にわかるだろう
- ③長老たちの要請の確認
★それは、熱心にモーセの律法を守っているユダヤ人のキリスト者への
配慮を求めたもの（彼らに異邦人キリスト者の基準を適用しない）

★一方、異邦人キリスト者に関しては、エルサレム会議で決定された
こと以上の律法遵守を要求しないことを確認（彼らにユダヤ人キリ
スト者の基準を適用しない）
- ④パウロの応答（要請を受け入れ、誓願に参加した）
4人の誓願者を連れて行き、翌日ともに身をきよめて宮に入った
いつきよめの期間が終わって、一人ひとりのためささげものができるか
を告げた

V. 結び

- (1)キリスト者（聖徒）の豊かな主にある交わり
集まる、温かく迎える、宿を提供する（休息、安全）、惜別の思いを
もって見送る
働きの報告、成果をともに喜び、主をあがめる
- (2)神のみこころと人情の板挟みになったときは、神のみこころに従う
ほかの人がそうしようとしているとき、邪魔をしてはならない
- (3)双方が自分の考えを正しとし、相手のためと思ったとしても誤判断の可能性を
認める余裕をもつ 最終的には自分の考えを取り下げて主に委ねる
- (4)悪いうわさが招く大きな損害が懸念される時は、祈りとともに具体的な解決策
を模索する必要が生じる（うわさは放って置くのが良い場合もあるが）
- (5)覚悟には、死を堵することを含む場合も少なくない
- (6)今回のパウロのとした行動は、パウロの原則には厳正に、適用には柔軟にと
いう原則に基づいている
ユダヤ人にはユダヤ人、異邦人には異邦人にそれぞれふさわしく